

請 願 書

平成31年2月19日

千代田区議会議長 松本 佳子 殿

【紹介議員】

寺沢文子
小枝すみ子
飯島和子
木村正明
牛尾耕一郎

岩佐りり子
岩田かずひと

【請願者】



(件名)

辺野古新基地工事の即時中止と沖縄県民の民意を尊重した誠実な協議に関する請願書

1. 請願理由

(1) 政府・沖縄防衛局は、沖縄県の再三にわたる工事中止の行政指導を無視し、昨年12月14日から辺野古海域への土砂投入を強行しています。これまで情報の少なかった全国の人々に映像が伝わることで、世論調査では土砂投入反対の声が賛成を大きく上回り、米ホワイトハウス宛てのネット署名は1カ月で20万筆を超えるなど、国内外で批判が高まっています。

いま政府が沖縄で行っているのは、「ていねいに説明」「寄り添う」とは真逆のことです。工事は沖縄県民の生活圏で行われ、新基地が完成すれば同じく県民の生活圏で運用されます。辺野古新基地の当事者である沖縄の民意をこれ以上無視して、工事を強行することは許されません。

(2) 政府は、「普天間の危険性除去」「辺野古が唯一の解決策」と繰り返してきました。しかし、この1年余に明らかになったのは、これも真逆の事実です。大浦湾側ケーソン護岸海域の軟弱地盤、活断層の疑い、米飛行場設置基準の高さ制限に358件の建造物が抵触する違法設計など、辺野古新基地自体が危険そのものという事実です。

普天間基地では、米国内法で土地利用が禁止された区域に、約4,000人が暮らしています。「普天間の危険性」がこのことを指すのであれば、そもそも違法な基地として即時閉鎖・撤去手続きに入ることこそ、「法治国家」としてなすべきことではないでしょうか。

事業費2,400億円でスタートした辺野古新基地について、沖縄県は運用開始までに今後13年、事業費は10倍の2兆5,500億円に膨らむとの試算を政府に伝えています。「唯一の解決策」として辺野古に固執することこそ、「普天間の危険性」の放置ではないでしょうか。



期は何年かかるのか、事業費はいくらになるのか、政府には自らの主張との整合性を含めて明らかにする責任があります。

(3) 辺野古・大浦湾は、262種の絶滅危惧種を含む約5,400種の生物が確認されている、世界に誇る生物多様性の宝庫です。この海域が東京ドーム17個分の土砂で埋め立てられ、必要土砂の75%は、西日本各地から搬出される計画です。気候帯の異なる温帯の西日本から亜熱帯の沖縄への大量の土砂移動には、外来種の侵入などによる生態系への影響が危惧されています。また、新基地建設工事には、東京に本社を置く多くの企業が参入しています。

50万年の歳月がつくり出した「いのちの海」を未来に引き継ぐこと、それは地域と世代をこえて、いまを生きる私たちの責任ではないでしょうか。

以上の理由により、下記事項の請願を行うものです。

2. 請願事項

議会において以下を内容とする意見書を採択し、政府および国会に提出してください。

- (1) 辺野古新基地工事を直ちに中止し、普天間基地の運用停止手続きを進めること。
- (2) 辺野古新基地工事について政府は情報を積極的に開示し、沖縄県との協議はもとより国会をはじめ全国民的な議論により解決を図ること。

【以下余白】